

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

今日は縁起のいい奇数の九が重なる「重陽」と呼ばれる9月9日。江戸時代には五節句の一つになり、重陽の節句として

秋の収穫期とも重なるため、栗ご飯を食べてお祝いしたおめでたい日とされた。コロナ感染が長引く中、邪気払いの象徴である菊の花を頼りにした昔からの習わしにすがりたい気分だ。

9月に入り外国為替

市場で円安が加速し、1ドル140円台まで下落した。バブル崩壊後の金融危機以来の24年ぶりの円安ドル高水準を更新。円は今年に入ってドルに対して25円ほど下落、安い日本の不動産は海外投資家

の格好の買場だ。大北地域の不動産にも、大きな関心が寄せられているとの情報だ。投資を目的とした無秩序な開発は、これまで地域が努力してきた秩序ある開発にも悪影響を与える事が心配されている。

る可能性は極めて高い。これらの外部資本の対応にどの様な知恵を出すのか、行政や地域観光関係者の取り組みや9月定例議会での論議に関心を持っていくべきなのだろう。付け加えて言うべきは、全ての外部資本を排除

## 暮らしの中の色使いが大切だ

施設の増設を積極的に展開してきた歴史があるが、コロナ禍で8畳・10畳に大人数を泊めるスタイルは敬遠され、以前のような施設利用にならない事は明白だ。既存の多くの営業施設が買収対象にな

するのではなく、大北地域に関心ある外部資本に対して、地域が求める地域デザインの考え方を積極的に発信する事は当たり前の考えである事を念に押ししておきたい。高齢化社会の到来か

と思える事例を多く見受けられるようになった。特に認知症ではないかと思わせる事例が気になってきている。自分も気を付けなくては思っていた時、野村順一さんの著書『色の秘密』の情報を知る機会があった。私が好んで着ていた、焦げ茶色や灰色・黒などの渋い色の服は、内分必系を活性化させる太陽光線を吸収してしまうため、早く老いるとの記述だ。赤やオレンジなど暖色系に囲まれていると、時間を実際よりも長く、青や青緑などの寒色系では逆に短く感じるなど色には不思議な力があると。

早速暖色系の衣服にしてみると、気持ち若くなったような幸福感に。これまで無頓着だった暮らしの中でも

色の効能を知る事が大切だと少しだけ分かった気分になった。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



大学女子ソフトで特別協賛の戸田中央メディカルケアグループから寄贈された優勝旗が歴史を感じさせる